

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学演習ⅠA						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子の本文研究						
授業の概要	複雑に錯綜する枕草子の異本本文について、その相互関係について考えてみる。						
到達目標	枕草子の本文についての知見と認識を深める。						
授業計画	1 枕草子の章段の特性 2 枕草子成立の環境 3 枕草子の作者 4 枕草子の本文系統 5 「～は」型章段の本文異同についての研究発表 第1回 6 第1回発表についての質疑応答 7 「～もの」型章段の本文異同についての研究発表 第2回 8 第2回発表についての質疑応答 9 「～もの」型章段の本文異同についての研究発表 第3回 10 第3回発表についての質疑応答 11 随想的章段の本文異同についての発表 第4回 12 第4回発表についての質疑応答 13 日記的章段の本文異同についての発表 第5回 14 第5回発表についての質疑応答 15 総括と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の分担する章段について諸本間の本文異同を整理し、聴く者にとってわかりやすいレジュメを作成すること。						
授業方法	1～4は講義、以後は演習						
評価基準と評価方法	平常点（70%）とレポート（30%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学演習ⅡB						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子の本文研究（続）						
授業の概要	複雑に錯綜する枕草子の異本文について、その相互関係について考えてみる。						
到達目標	枕草子の本文についての知見と認識を深める。						
授業計画	1 枕草子概説 2 「～は」型章段の本文異同についての研究発表 第1回 3 第1回発表についての質疑応答 4 「～は」型章段の本文異同についての研究発表 第2回 5 第2回発表についての質疑応答 6 「～もの」型章段の本文異同についての研究発表 第3回 7 第3回発表についての質疑応答 8 「～もの」型章段の本文異同についての発表 第4回 9 第4回発表についての質疑応答 10 随想的章段の本文異同についての発表 第5回 12 第5回発表についての質疑応答 13 日記的章段の本文異同についての発表 第6回 14 第6回発表についての質疑応答 15 総括と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の分担する章段について諸本間の本文異同を整理し、聴く者にとってわかりやすいレジュメを作成すること。						
授業方法	1～4は講義、以後は演習						
評価基準と評価方法	平常点（70%）とレポート（30%）						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学史演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌と歌学・歌論の歴史						
授業の概要	和歌の歌風や歌学・歌論の変遷について演習する。歌語や表現、修辞の変遷、また、歌会や歌合の作法、また、『万葉集』や『古今和歌集』など歌集の撰集について考察し、歌学、歌論の変遷について探究する。						
到達目標	古代から中世に至る歌学・歌論の変遷について理解する。						
授業計画	第1回 和歌の歌風の変遷について 第2回 歌集の撰集について 第3回 万葉集について 第4回 古今和歌集について 第5回 後撰和歌集について 第6回 拾遺和歌集について 第7回 後拾遺和歌集・金葉和歌集について 第8回 千載和歌集について 第9回 歌合について 第10回 歌会について 第11回 俊頼髓脳について 第12回 古来風体抄について 第13回 新古今和歌集について 第14回 藤原定家の歌学について 第15回 歌学・歌論についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	歌学書や歌論書						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容80% 平常点 20%						
教科書	別途指示する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学史演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学史の展開						
授業の概要	物語文学の史的展開について演習する。 物語が生み出される歴史的背景や物語の生成のあり方について探究する。						
到達目標	物語文学についての文学史の理解と分析						
授業計画	第1回 物語文学について 第2回 竹取物語について 第3回 宇津保物語などの伝奇物語について 第4回 伊勢物語について 第5回 伊勢物語の生成について 第6回 大和物語などの歌物語について 第7回 源氏物語について 第8回 源氏物語の成立について 第9回 狭衣物語について 第10回 堤中納言物語などの平安後期物語について 第11回 無名草子と風葉和歌集における物語への視座について 第12回 栄華物語について 第13回 大鏡などの歴史物語について 第14回 平家物語などの軍記物語について 第15回 擬古物語について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った物語をできるだけ多く読み進める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表内容など演習の取り組み 80% 平常点 20%						
教科書	別途指示する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義IIA						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	浄瑠璃・歌舞伎の基礎研究1						
授業の概要	浄瑠璃と歌舞伎の交流は近世演劇史の重要なテーマである、しかし二つの芸能は残された資料の性質が異なり、研究は難しい。そこで浄瑠璃でも歌舞伎でも演じられる作品を取り上げ、その研究の具体例を考察する。前期は浄瑠璃を読む。						
到達目標	実証的な研究の方法を学ぶ						
授業計画	第1回 浄瑠璃概説 第2回 浄瑠璃の正本 第3回 『国性爺合戦』 1 第4回 『国性爺合戦』 2 第5回 『国性爺合戦』 3 第6回 『仮名手本忠臣蔵』 1 第7回 『仮名手本忠臣蔵』 2 第8回 『仮名手本忠臣蔵』 3 第9回 『仮名手本忠臣蔵』 4 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 5 第11回 『妹背山婦人庭訓』 1 第12回 『妹背山婦人庭訓』 2 第13回 『妹背山婦人庭訓』 3 第14回 浄瑠璃鑑賞 第15回 舞台の再現						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業を理解するために、指示する資料で近世演劇全般に関する知識を学ぶ必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% レポート50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義IIB						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	浄瑠璃・歌舞伎の基礎研究2						
授業の概要	浄瑠璃と歌舞伎の交流は近世演劇史の重要なテーマである、しかし二つの芸能は残された資料の性質が異なり、研究は難しい。そこで浄瑠璃でも歌舞伎でも演じられる作品を取り上げ、その研究の具体例を考察する。後期は歌舞伎を読む						
到達目標	実証的な浄瑠璃と歌舞伎研究の方法を学ぶ						
授業計画	第1回 歌舞伎概説 第2回 歌舞伎の台帳 第3回 『国性爺合戦』 1 第4回 『国性爺合戦』 2 第5回 『国性爺合戦』 3 第6回 『仮名手本忠臣蔵』 1 第7回 『仮名手本忠臣蔵』 2 第8回 『仮名手本忠臣蔵』 3 第9回 『仮名手本忠臣蔵』 4 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 5 第11回 『妹背山婦人庭訓』 1 第12回 『妹背山婦人庭訓』 2 第13回 『妹背山婦人庭訓』 3 第14回 歌舞伎鑑賞 第15回 舞台の再現						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業を理解するために、指示する資料で近世演劇全般に関する知識を学ぶ必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% レポート50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活と文学						
授業の概要	2009年10月に出版された小説を題材に日本の出版文化の様々な問題を考える						
到達目標	生活に密着したものとして、日本の出版文化を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代とは？ 第3回 文学とは？ 第4回 生活とは？ 第5回 石田衣良とは？ 第6回 音楽と文学 第7回 書物とは？ 第8回 雑誌とは？ 第9回 出版の問題 第10回 流通の問題 第11回 家族とは？ 第12回 名譽とは？ 第13回 継続すること 第14回 残るもの 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	好奇心旺盛に広範囲にアンテナを張り繞らしておくこと						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価とレポート試験						
教科書	石田衣良『チッチと子』						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀の出版文化						
授業の概要	20世紀という時代を、出版の問題を軸に考える。写真・映画・漫画・サブカルチャー等の問題にも言及する。						
到達目標	20世紀という時代を理解することにより、現在に生きる我々の文化的生活の意味を問う。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 出版とは？ 第3回 印刷の問題 第4回 流通の問題 第5回 定価の問題 第6回 編集者の問題 第7回 著作権の問題 第8回 異版の問題 第9回 検閲の問題 第10回 ベストセラーの問題 第11回 自費出版のこと 第12回 デジタル化の問題 第13回 21世紀の問題 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、レポート試験50%						
教科書	江藤茂編著『20世紀メディア年表』双文社出版 ISBN 978-4-88164-586-4						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIA						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語のイントネーションの研究						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特にイントネーションの分野に関する研究を取り扱う。担当者はこれらの文献を要約し発表する。他の受講生は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。</li> <li>・イントネーション研究に対する理解を深め、独自の視点で考察ができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 イントネーション研究の概観 第3回 日本語のイントネーションの研究 (1) 第4回 日本語のイントネーションの研究 (2) 第5回 日本語のイントネーションの研究 (3) 第6回 日本語のイントネーションの研究 (4) 第7回 日本語のイントネーションの研究 (5) 第8回 日本語のイントネーションの研究 (6) 第9回 日本語のイントネーションの研究 (7) 第10回 日本語のイントネーションの研究 (8) 第11回 日本語のイントネーションの研究 (9) 第12回 日本語のイントネーションの研究 (10) 第13回 日本語のイントネーションの研究 (11) 第14回 日本語のイントネーションの研究 (12) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表を担当する場合は必ずレジュメ(配布資料)を作成すること。また、発表を担当しない場合でも必ず文献を読んでおくこと。						
授業方法	第1回、第2回、第15回は講義形式。その後は演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	発表内容40%、演習への参加度30%、レポート30%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIB						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の方言終助詞の研究						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特に方言終助詞の分野に関する研究を取り扱う。担当者はそれらの文献を要約し発表する。他の受講生は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。</li> <li>・方言終助詞研究に対する理解を深め、独自の視点で考察ができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 (方言) 終助詞研究の概観 第3回 日本語の方言終助詞の研究 (1) 第4回 日本語の方言終助詞の研究 (2) 第5回 日本語の方言終助詞の研究 (3) 第6回 日本語の方言終助詞の研究 (4) 第7回 日本語の方言終助詞の研究 (5) 第8回 日本語の方言終助詞の研究 (6) 第9回 日本語の方言終助詞の研究 (7) 第10回 日本語の方言終助詞の研究 (8) 第11回 日本語の方言終助詞の研究 (9) 第12回 日本語の方言終助詞の研究 (10) 第13回 日本語の方言終助詞の研究 (11) 第14回 日本語の方言終助詞の研究 (12) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表を担当する場合は必ずレジュメ(配布資料)を作成すること。また、発表を担当しない場合でも必ず文献を読んでおくこと。						
授業方法	第1回、第2回、第15回は講義形式。その後は演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	発表内容40%、演習への参加度30%、レポート30%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義A						
担当教員	高梨 信乃						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語および日本語教育をめぐるさまざまな問題を考える。 基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。 論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。						
到達目標	日本語を学んだり教えたりした経験から考察テーマを発見し、それを研究として構築していく。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨ 第2回 日本語教育における文法(1) 第3回 同(2) 第4回 同(3) 第5回 同(4) 第6回 日本語教育における語彙(1) 第7回 同(2) 第8回 同(3) 第9回 同(4) 第10回 日本語教育における配慮表現(1) 第11回 同(2) 第12回 同(3) 第13回 同(4) 第14回 同(5) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに、問題点を挙げておく。 発表を担当するときは、配布資料を準備しておく。						
授業方法	輪読および研究発表						
評価基準と評価方法	平常点(70%)、レポート(30%) 平常点は、出席、発表およびディスカッションへの参加度により評価する。						
教科書	必要に応じてプリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義B						
担当教員	高梨 信乃						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語および日本語教育をめぐるさまざまな問題を考える。 基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。 論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。						
到達目標	前期に引き続き各自の研究テーマを追求し、内容を深めていく。 同時にほかの受講生の研究テーマについても議論することにより、日本語教育のさまざまな分野についての知識と理解を深める。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 日本語教育における文法(1) 第3回 同(2) 第4回 同(3) 第5回 同(4) 第6回 日本語教育における語彙(1) 第7回 同(2) 第8回 同(3) 第9回 同(4) 第10回 日本語教育における配慮表現(1) 第11回 同(2) 第12回 同(3) 第13回 同(4) 第14回 同(5) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに、問題点を挙げておく。 発表を担当するときは、配布資料を準備しておく。						
授業方法	輪読および研究発表						
評価基準と評価方法	平常点(70%)、レポート(30%) 平常点は、出席、発表およびディスカッションへの参加度により評価する。						
教科書	必要に応じてプリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						